

10 施設・設備

【到達目標】

津田塾大学の学部・大学院の教育理念・目的に基づき、教育研究活動に供する施設・設備について、その機能の向上を目指し、改善・更新を継続的に進めていく。施設・設備を有効的、効果的、安全に活用するために計画的な実施が必要であり、大規模な施設設備整備計画については、学長が学長室会議、理事長および理事会と協議しながらプランを作り、学内合意を得た上で、実施している。ただし、安全上、緊急に実施される必要がある事項については、この限りでない。緑化計画等、定型的な整備計画は、教職員で構成されたキャンパス整備委員会で協議された事項を、事務局管理課が中心となり具体化している。中・長期的施設設備の維持管理や改善については、安全性、経済性、良好な環境の確保を行っていくため、総合的な情報分析結果に基づき、適正な予算措置を講じて実施している。また、2008年度に財団法人津田塾会から寄贈された千駄ヶ谷キャンパスの再開発の検討が現在行なわれている。これからも、教室什器の更新、バリアフリー、空調設備更新、アメニティ等の向上に力を入れ、継続的な既存施設設備の環境改善を目標とする。なお、創立110周年記念事業である新北校舎の建築計画が進められており、2010年7月末竣工を目指している。また現北校舎解体後の跡地の庭園整備についても一連の建築計画として実施予定である。

1 . 施設・設備等の整備

- 1) 大学・学部、大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備条件の適切性

【到達目標】

学部・大学院の教育研究活動に供するための施設・設備について、教育研究の目的の達成、効果の向上を目指し、施設・設備の改善・更新を遅滞なく進めていく。

【現状説明】

本学の小平キャンパスは、1922年に小平市の土地を取得し、千代田区麹町のキャンパスから移転し、新校舎本館において1931年9月15日から授業を開始した。以後学科の増設、定員増、図書資料増、研究室充実等に併せて校舎の建築や増改築を進めてきて、現在に至っている。創立記念事業として建築された建物等は、創立60周年に新館・中庭、創立70周年に記念館、創立80周年に大学ホール、創立90周年に5号館（AVセンター）、創立100周年に津田梅子交記念交流館である。校地面積については、千駄ヶ谷キャンパス(7,344㎡)と学外校地である東中野(518㎡)・榛名(1,047㎡)・川崎住宅(306㎡)・西国分寺(347㎡)・軽井沢(2,711㎡)及び墓地(49㎡)の土地を除いた小平校地総計で約91,494㎡となっている。これは学生1人当たりに換算すると約31.1㎡(2009年5月1日現在の学部学生数2,860人、大学院生76人)になる。ま

た、小平校地の校舎等（学生寮等を除く）の面積は29,795㎡であり、学生1人当たりの換算面積は約10.1㎡となる。これらの現況は設置基準を十分満たしたものとなっており、校地では3.7倍、建物では3.1倍、必要面積と比して有している。本館など7棟の校舎の他に、付属施設として、図書館、書庫、交流館、大学ホール、6号館、7号館の建物があり、その中に学生厚生音楽練習室、サークル部室、食堂及び喫茶等の施設がある。また、新館2階にある特別教室（615席-685席、323㎡）は入学式・卒業式の講堂としても使用されている。付属運動施設として、記念館3階にある体育館（バスケット、バレーボール、バトミントン等）、多目的グラウンド、テニスコート（クレートコート3面、照明設備付き）があり、体育の正課授業と課外活動に使用されている。その他の学外施設として、西国分寺セミナーハウス、軽井沢セミナーハウスがあり、学生の教育研究に使用（2008年度施設利用者延べ数 前者114人、後者207人）されている。なお、榛名セミナーハウスは施設設備の老朽化等の理由により、使用を休止している。千駄ヶ谷キャンパスは、土地については、7,344㎡のうち4,751㎡（約65%）が教育研究用に供されている。建物は3棟のうち2棟の千駄ヶ谷本館（RC6階・地下1階、延べ床面積5,144㎡）と千駄ヶ谷別館（RC3階、延べ床面積510㎡）が教育研究用の施設となっている。その用途は、千駄ヶ谷本館は、建物の老朽化等により使用は1階のみに制限して大学院用・研究所等用に、千駄ヶ谷別館はオープンスクールとして教育支援用となっている。各建物の面積・用途等の詳細なデータは別表に記載している。大学院については、専用の建物はなく、学部のものとの共用が基本となっている。授業の中心となっている少人数演習室の数は十分あり、現在のところ、大学院の教育研究活動を実施していく上で、施設・設備を学部と共用していることで問題となる点はほとんどない。（図表10-1）

教室及び教室設備について

部屋数については、講義室44室、演習室27室、学生自習室11室、合計5,793㎡となっている。収容人数は、それぞれ3,565人、575人、78人である。講義室の平均面積は約103.7㎡/室（学生1人当たりの面積は1.97㎡）、演習室の平均面積は約35.7㎡/室（同0.33㎡）となっている。大学院専用に使われている演習室は、北校舎3階5室194㎡である。また、実習室としての分類では、新館自習室2室75㎡、南校舎WS教室5室583㎡、5号館CALL教室4室551㎡となっている。

机・椅子・書架等の什器類、各種教育研究用機器については、学部・大学院の教育研究方針を踏まえ、利便性、経済性、耐久性等を精査し、計画的な設備更新に基づき、順次新しいものに更新している。2008年度に本館1階教室、5号館2階CALL教室什器更新を実施している。なお、学生用移動式机の天板はW650×D450の規格を標準としている。視聴覚関係設備の充実については、ほぼ全教室にAV機器（移動式・固定）の設置がすでに完了し、その機器更新も適宜実施し、最新のソフトにも対応できるようにしている。2007年度に新館特別教室に導入されたプロジェクター（及び280インチスクリーン）は、高輝度10000lm、フルHD対応であり高精細な情報量のコンテンツの忠実な再現が可能である。2008年度には、本館等に映像システムを強化している。照明器具については、明るく高効率のHf

タイプの灯具に統一し、教室の標準照度(300~500ルクス)をほぼ確保している。蛍光灯の交換も定期的に一斉におこなっている。空調設備は、1995・1996年度に蒸気ボイラーからガスGHP式に更新して以来、2005年度に新館、2006年度に1号館・南校舎・図書館・書庫、2007年度に本館と2世代目の設備に移行している。2009年度には、2号館、記念館、大学ホールの更新を予定している。現在は、教室・事務室に換気設備もほぼ整備され、換気機能のない建物は北校舎だけとなった。

研究室について

1号館にある英文学科・国際関係学科研究室は、セミナーも可能なゆとりある面積(20㎡弱平均)が確保している。新館にある情報科学科、数学科も、同様に24㎡のゆとりある環境となっている。

このことにより、研究室においても少人数教育の場である教室の機能としても利用もされている。室数と面積は、個室は86室1,673㎡、共同部屋は11室268㎡である。その他に3研究科共用室(千駄ヶ谷本館1階100㎡)がある。各研究室は、情報基盤のインフラ強化が図られている。なお、2006年度の1号館の空調設備更新時に、研究室で唯一換気設備が無かった旧別館部にも同設備が整備された。

研究施設について

研究所の場所と面積は、言語文化研究所(1号館1階3室117㎡)、国際関係研究所(2号館3階8室167㎡)、数学・計算機科学研究所(新館2階2室33㎡)、3研究所共用室(千駄ヶ谷本館1階100㎡)、ウェルネス・センター(2号館2階8室101㎡)となっている。その他に、オープン・リサーチ・センター(2号館1階2室72㎡)、女性研究者支援センター(本館1・2階2室82㎡)、ライティングセンター(交流館1階31㎡)、英語カリキュラム協調開発プロジェクト(本館2階2室33㎡)がある。その他に千駄ヶ谷本館(1階100㎡)に、千駄ヶ谷教育研究機構、女性研究者支援センター、オープン・リサーチ・センターの共用室がある。

大学院院生室について

大学院生の専用の施設としては大学院生室がある。北校舎3階に文学研究科4室(80.0㎡)、国際関係学研究科4室(75.0㎡)があり、新館2階に理学研究科2室(54.0㎡)がある。

事務室について

事務室については、分散していた事務室の集約化が1995年度に行なわれ、新館1階にセンターオフィスが設けられた。教務課、学生生活課、総務課、経理課、管理課の5部署が入っており、有機的に機能している。センターオフィス同様にその他のオフィス環境についても、OA機器の充実、空調設備の改善、照明器具の更新等さらなる維持改善の計画が進められている。なお、2006年度に図書館・書庫の事務室に換気設備が整備された。

小平キャンパスの電気・給水等施設について

受変電設備は、電力需要増大(増築、空調、OA化等)に併せて、これまで設備増強を図ってきている。空調設備2世代目更新は、2002年度の5号館(ガス吸収式から電気EHP式)、2005年度の新館と2006年度の1号館・南校舎・図書館・

書庫（ガスGHP式から電気EHP式）、2007年度は本館（GHP式の継承）である。現在の契約電気量は1.102キロワットである。なお、3KV系タイトランスの受電容量は、1,380KVAであり、2006年度の空調設備更新時には、6KV系の専用電源を増設している。電気の基本料金はデマンドで決まるので、ピークを抑えていく努力が一層必要となっている。建物面積や設備拡大による電気消費量や最大電力の増加についてはやむを得ないことではあるが、一方節電対策や設備の高効率化への対応も継続していく必要がある。電源設備の安定・安全性の確保については、点検報告書に基づき種々の問題改善を計画している。給排水配管設備については、配管の更新計画に基づきほぼ2002年度に完了している。老朽化した埋設配管を盛替した結果、漏水は完全に防止されている。トイレや消火栓系の水源は、井戸水を利用している。管内腐食が少ない利点や、単価の高い市水使用の抑制としては効果的であり、また災害時の備えとしても有効である。なお、ポンプ所内の市水給水ポンプについては、2006年度に高性能な機器に更新している。2008年度には老朽化して不動状態であった非常用発電機が更新され、停電時には守衛所、消火栓ポンプ、給水ポンプの電源供給が復旧した。また、電話ケーブル幹線の老朽化と容量不足の改修の期工事が実施された。

千駄ヶ谷キャンパス

千駄ヶ谷本館は、寄贈を受ける前まで、建物・設備の維持管理が不十分であった。また耐震改修も1階のみの施工であり、上階は使用できる状態ではない。1階は、2008年度に内装改修、照明設備の改修、エアコンの設置を行い利用に供するよう改善を図っている。しかし建物・設備は老朽化し、安全性、機能面、経済性からして保持できないものであり、その再開発が検討されている。別館は寄贈を受ける直前に内外装・設備を全面改修しており、機能面も向上した状態で取得をしている。講義室（5室234㎡）は、2008年度に視聴覚設備を整備している。

【点検・評価】

現在の教室・演習室数は、計71室あるが、4割の27室が演習室であり、本学の教育理念である少人数教育を実施する基本的な環境は備えている。また、設備的にも竣工年数の古い建物本体についての維持管理は特筆でき、室内装、設備の改修も適宜行なってきた。今後の教室整備については、高度機能化（無線LAN、会議システム等の拡充、フルハイビジョンの対応、ディスプレイのCRTからの薄型化・プロジェクター等）が検討されている。ゆとりあるサイズの什器への更新や教室定員数の見直し等の総合的な改善がポイントとなる。なお、北校舎の演習室については、研究室棟として建築された建物を用途変更して改修をしているため、縦横比が長方形（縦横比1.7から1.9:1）をしており、演習室として利用しにくく、また狭隘な環境となっている。

【改善方策】

北校舎には、教室、演習室、院生室、国際交流センター、就職資料室があるが、同機能を備えた建物（RC4階、延床面積2,669㎡）新北校舎（仮称）が、110周年記

念建築事業で2010年度7月末に竣工予定である。本学の教育理念である少人数教育を行なうための演習室・教室の環境整備面では、演習室・教室が増え、什器・視聴覚機器等も一新され利用環境の改善が、より一層図られることになる。

2010年度の施設設備整備計画には、2008年度に実施した本館教室等の木床の張替えと什器更新の 期改修、2009年度の計画には、2号館、記念館、大学ホールの空調設備更新、電話ケーブルの 期工事がある。

千駄ヶ谷キャンパスは、寄贈されたばかりの状態であり、まだ本格的な利用にいたっていない。しかし、その役割や機能については、大きな可能性を持っており、再開発に期待がよせられている。また、同キャンパス内の建物3棟の内、千駄ヶ谷津田ホール（RC4階地下1階 延べ床面積4,593㎡）は、現時点では教育研究には直接的には利用されていないが、将来的にはキャンパス全体の機能として、有機的に再構築される可能性もある。

図表10-1 学科等の施設・設備の状況(2009年5月現在)

土地	取得年度	面積㎡	備 考
小平校地	1922	76,901	屋外運動場敷地9,110㎡ 学生寮敷地9,206㎡ 含む
小平校地	1936	6,495	西雑木林 梅林
小平校地	1939	66	梅林
小平校地	1940	1,466	梅林
小平校地	1948	3,955	西雑木林
小平校地	1979	2,611	東側校地
榛名校地	1987	454	
榛名校地	1988	55	
西国分寺校地	2001	347	
軽井沢校地	2006	2,711	
千駄ヶ谷校地	2008	4,751	教育研究用の部分
合計		99,812	

建 物	取得年度	構 造	延床面積㎡	教研面積㎡	教室等面積㎡	研究室面積㎡	研究所面積㎡	図書館面積㎡	体育施設面積㎡	エレベーター有無	換気装置有無	用途	改善点(直近約1年)	課題点
本館	1931	RC4階地下1階	4,210	3,785	1,597	0	0	0	0	有	有	教室,学長室,秘書室,会議室,企画広報課,入試室	教室床改修 什器・AV強化	教室什器更新
新館	1960	RC3階	3,383	2,998	483	389	33	100	0	無	一部無	数学・情報科学研究室 数学計算機科学研究所 理学院生室,事務室,会議室 教職準備室,日本語教員養成課程資料室,特別教室,センター 教室,WS教室,システムビル室		バリアフリー化
南校舎	1969	RC3階	1,756	1,756	850	0	0	0	0	有	有	教室,文学院生室, 国際院生室,就職資料室 印刷室,国際センター		諸設備老朽化 バリアフリー化
1号館	1979	RC3階	3,230	3,230	385	1,256	117	0	0	有	有	英文・国際関係学科研究室 英文・国際関係学科事務室 言語文化研究所,教室,会議室	3D・フ・自動扉 設置	教室什器更新
2号館	1979	RC3階	970	970	160	10	167	0	0	有	一部有	研究室,カレッジセンター,医務室 事務室,国際関係研究所 オープンラーセンター	照明器具更新	空調設備更新
5号館	1990	RC3階	3,359	3,359	1,859	35	0	0	0	有	有	AV教室,CALL教室,AVイノベーションスタジオ,教材制作室 メディアサービス事務室	照明器具更新	
記念館	1970	RC3階	3,518	3,054	0	0	0	0	713	有	無	体育館,トレーニング室,講師室 学生食堂,学生部室 生協売店		空調設備更新

図書館	1954	R C 2階 地下1階	1,202	1,202	0	0	0	1,202	0	無	有	閲覧室,会議室,事務室 資料室		
書庫	1981	R C 6階 地下1階	4,563	4,563	0	0	0	4,563	0	有	有	書庫,閲覧室,事務室	非常用発電機	
交流館	1964	R C 2階	550	550	116	0	0	0	0	無	無	教室,ホール,事務室		空調設備更新 ハリアフリー化
大学ホール	1981	R C 3階 地下1階	1,164	1,143	0	0	0	0	0	無	無	談話室,喫茶,部室 音楽練習室		空調設備更新 ハリアフリー化
6号館	1991	R C 1階	240	240	42	0	0	0	0	-	有	研修室,課外活動		
7号館	1999	木造2階	134	134	0	0	0	0	0	無	有	研修室,保育所		
千駄ヶ谷 本館	2008	R C 6階 地下1階	5,144	1,154	0	0	200	0	0	有	無	研究科,研究所	1階空調	
千駄ヶ谷 別館	2008	R C 3階	510	510	234	0	0	0	0	無	有	教室 千駄ヶ谷キャンパス事務室	教室AV機器 外灯整備	
軽井沢 セミナーハウス	2001	木造2階	226	226	40	0	0	0	0	無	有	セミナーハウス		
西園分寺 セミナーハウス	2002	木造2階	183	183	40	0	0	0	0	無	有	セミナーハウス		
榛名 セミナーハウス	1988	木造1階	120	120	42	0	0	0	0	-	無	-		
体育倉庫	1986	木造1階	46	46	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
第一倉庫	2002	S造1階	79	79	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
第二倉庫	2003	S造1階	79	79	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
第三倉庫	1995	S造1階	52	52	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
第四倉庫	1985	S造1階	73	73	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
第五倉庫	1931	木造1階	79	79	0	0	0	0	0	-	-	倉庫		
給水所	1931	R C 1階	116	116	0	0	0	0	0	-	-	ポンプ室		
受電所	1999	R C 1階	81	81	0	0	0	0	0	-	-	受電室		
守衛所	1983	R C 1階	72	72	0	0	0	0	0	-	有	守衛室		
木工所	1964	木造1階	99	99	0	0	0	0	0	-	-	作業場		
合計			31,100	29,805	6,376	1,690	317	5,865	713					

2)教育の用に供する情報処理機器などの配置状況

A . 情報関連設備(計算センター)について

【現状説明】

情報関連設備について

情報教育および、情報を活用した教育を行なうための設備は2009年5月現在、次のとおりである。

南校舎

- ・ S 205 ワークステーション教室WindowsXP PC 60 台
- ・ S 206 ワークステーション教室WindowsXP PC 40 台
- ・ S 303 ワークステーション教室AppleComputer 23 台
- ・ S 304 ワークステーション教室WindowsXP PC 60 台
- ・ S 305 ワークステーション教室AppleComputer 42 台
- ・ 教材準備・研究用貸し出しノートPC 25 台
- ・ 教材準備・研究用分散配置端末 50 台

新館

- ・ M202 実習室 WindowsXP PC 18 台
- ・ M313 コンピュータ室 WindowsXP PC 10 台
- ・ 3階ホール WindowsXP PC 10 台

これら施設と設備は、学部・大学院の授業に使用されるほかは学生の自習のために解放されている。ひとりあたり約1GB まで使用できるファイルサーバー装置を置き、学内のどの端末からも個人の学習環境を参照し、また機密維持ができるようになっている。

なお、新入学者に対しては、新学期に集中して講習を行なうとともにインターネ

ットアカウントを与え、学習にすぐ活用できるようにしている。

教材類は、学内に専用のウェブサーバーを置き、授業時も自習時も自由に参照できるようになっている。南校舎では、授業時の教材提示は、プロジェクタによる投影か、2人に1台あて設置された表示装置によって行なうことができる。

ネットワークインフラの整備について

外部インターネットへは、2004年2月より、IJJ社の10Mビット/秒高品位接続を利用していたが、学生のインターネット利用の増大（動画の視聴、音楽データのダウンロードなど）に伴い、平日昼間においては常時10Mbps上限の通信量に達するなど、応答遅延も見られるようになってきていたため、2008年4月より、30Mビット/秒への増速を実施した。

学内LANは南校舎サーバー室に置いたCisco6900型スイッチから1000Base光通信路を使ったバックボーンを構成し、南校舎情報教育教室、1号館研究棟、新館研究棟、北校舎大学院研究室、図書館、5号館視聴覚棟、本館教室、2号館研究棟、記念交流館をカバーしている。

学外から学内の情報に接続するためのvpn装置、および無線経由の接続について検疫・監視を行う装置を設置し、学外からアクセスする際の利便性と安全性を高めている。

【点検・評価】

情報関連設備について

2007年4月にネットワーク装置と端末機を更新した。貸し出し型ノートPCを準備し、また据付端末も新館教室等に増設したが、授業利用、自習利用ともに利用頻度は増大しており、身近な場所ですぐ使用できるまでになっていない。

ネットワークインフラの整備について

学外アクセスのための認証装置・監視装置を高性能なものに増強し、学生が家庭からもストレスなく学内の学習環境にアクセスできるようにする必要がある。知の拠点として大学からさまざまな情報提供を行なうためには、その情報内容を保証するための認証機構も整備する必要があるし、インターネット接続はさらに高速化し多重化することが必要である。

【改善方策】

情報関連設備について

2007年4月には販売による保証を確保できなかったため、Windows最新版OSを導入することができなかったが、学習効果をたかめるためは、早期に最新版OSへ切り替える予定である。

学習および教育で活用する情報はその情報源も情報媒体も多様になってきているうえ、個個人の学習形態や進度に応じた情報活用ができるような環境が必要になってきている。更新された高性能な設備を活用し、そのような学習ニーズに対応できる先進的なアプリケーションソフトを提供していく予定である。

B . 視聴覚教育設備（視聴覚センター）について

【現状説明】

視聴覚教室群について

本学の教育・研究理念である、「語学教育の重視」（広い視野や国際性を培うため、高度な外国語運用能力の育成）を実現するため、視聴覚センターには、CALL (Computer Assisted Language Learning) 教室を含む様々な視聴覚メディアが利用できる教室群とAVライブラリーがあり、語学教育はもちろんのこと視聴覚教材を駆使した教育を側面から支援する役割を担っている。特に英語教育においては、1960年のLLシステムの導入以来、教員指導のもとスタッフとの共同で、授業展開や学習効果を考えた「学生の能力とニーズに合わせた」自主教材の制作を行なっている。2006年度からは、この教材制作に大学院生が加わった。

視聴覚センターの中核として、録画・録音、配信、編集等の設備を備えた教材制作室がある。教材制作室では、各教室やAVライブラリー、ラウンジなどに、BBC、CNN等のニュース番組配信や、5101・5102教室、特別教室からの映像、音声を録画・録音することができる。また、5101・5102教室には教室カメラが設置され、5号館の各教室に当該教室の映像を配信することができる。また、スタジオや、ノンリニア編集可能なコンピュータを設置した2つの編集室があり、プレゼンテーションスキルを学ぶ英語の授業等、多くの学生に利用されている。(図表10-2)

2005年度、2008年度に、LLシステムをCALLシステムへ更新した際、課題となっていたネットワークの整備を行ない、ストリーミングに代表されるマルチメディアコンテンツの利用やインターネットの授業活用に供している。授業の空き時間にはCALL教室を学生の自習用に開放し、事前・事後学習に対応している。

図表10-2 教室視聴覚設備一覧（視聴覚センター内）

教室等	メディア装置類等						提示装置類等				PC類	LAN*	備考
	VTR	DVD	LD	CD	CTR	MD	OHC	M-TV	PD	VP			
5101	1	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-		(同時通訳ブース, 教室カメラ)
5102	1	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-		(教室カメラ, スライド, 16mm 映写機)
5201	1	1	-	1	1	1	1	-	-	1	49(Win)		CALL 教室(2人に1台の中間モニタ)
5202	1	1	-	1	1	1	1	-	-	1	49(Win)		CALL 教室(同上)
5205	1	1	-	1	1	1	1	-	1-	-	43(Win)		CALL 教室/同時通訳ブース(同上)
5206	1	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-		
5207	1	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-		研修室
5208	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(Mac)		ノンリニア編集室
5209	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(Mac)		ノンリニア編集室
5210	1	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-		研修室

5301	1	1	-	1	1	1	1	-	2	-	-	
5302	1	1	-	1	1	1	1	-	-	1	49(Win)	CALL 教室(2人に1台の中間モニタ)
5305	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	スタジオ調整室(ミキサー類)
5306	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	スタジオ(ビデオカメラ, 照明, マイク)
5307	1	1	-	1	1	1	1	-	2	-	-	
5308	1	1	-	1	1	1	1	-	1	-	-	
5309	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2(Win)	教材作成準備室(H-TV, BD)
5310	1	1	-	1	1	1	1	-	1	-	-	
貸出用	-	4	1-	2	2	2	-	-	-	-	6(W/M)	(DVカメラ5台, HDVカメラ1台)
合計	15	15	4	16	16	13	11	2	7	6	200	

* が記載されている教室等は、持ち込みPCのネットワーク接続にも対応している。

(VTR: Video Tape Recorder, DVD: Digital Versatile Disk Player, LD: Laser Disk Player, CD: Compact Disk Player, CTR: Cassette Tape Recorder, MD: Mini Disk Player, OHC: Over Head Camera, M-TV: Monitor Television, PD: Plasma Display, VP: Video Projector, H-TV: High Definition Television, BD: Blu-ray Disk Player)

AVライブラリーについて

AVライブラリーは、約60言語の語学資料をはじめ、詩・文学の朗読、講演、ニュース、映画、各種ドキュメンタリー、数学、保健体育など幅広い視聴覚教材 DVD、ビデオテープ、LD、CD、オーディオテープなどを収集し、自学自習の場を利用者に提供している。また、各ブースではCNN、BBC、ディスカバリーチャンネルを常時受信しており、いつでも視聴することができる。(図表10-3)

1996年度より図書館システムとの連携により資料検索が行なえる環境を提供しているが、2004年度、図書館システムのバージョンアップに伴い、OPACを利用した資料検索環境を提供している。

図表10-3 AVライブラリー視聴覚設備一覧

ライブラリー		メディア装置類						提示装置	備考
		VTR	DVD	LD	CD	MD	CTR	M-TV	
グループブース	A	1	2	1	1	1	1	1	
	B	1	1	1	1	1	1	1	
ペアブース	C,D	2	2	2	2	-	2	2	
	E,F	2	2	2	2	-	2	2	
	G,H	2	2	1	2	2	-	2	
AV学習ブース	11~4	4	-	-	-	-	4	4	LL カセットあり
	15~8	4	-	-	4	4	4	4	LL カセットあり(18は同時通訳用)

	I9, I11~15	6	-	-	-	-	6	6	LL カセットあり (I9 は同時通訳用)
	I10	-	-	1	1	-	1	1	LL カセットあり (同時通訳用)
個人ブース	J1~6	6	6	-	6	-	-	6	
	K1~6	6	6	-	6	-	-	6	
	L1	1	1	-	1	-	1	1	
	L2~6	5	5	-	5	-	5	5	
	M1~6	6	6	-	6	6	-	6	
	N1~6	-	6	6	6	-	-	6	
検索 PC		-	-	-	-	-	-	-	5 台
	合計	46	39	14	43	14	27	53	

(VTR: Video Tape Recorder, DVD: Digital Versatile Disk Player, LD: Laser Disk Player, CD: Compact Disk Player, CTR: Cassette Tape Recorder, MD: Mini Disk Player M-TV: Monitor Television)

【点検・評価】

メディアの変化を捉えて、時代に即した教育・研究支援環境を提供してきたが、地上波デジタル放送、ハイビジョンに代表されるように、映像・音声ともにアナログからデジタルへと向かう転換の直中にあり、メディア媒体や装置類に急速な変化が起きている。視聴覚教室群、AVライブラリーとともに、アナログを中心とした環境であるため、デジタルに対応した設備への変更が必要である。教材制作においても、作成手順や提供方法の見直しが必要となっている。

【改善方策】

視聴覚教室群について

2009年度、5号館竣工当初より維持してきたスタジオ・調整室を、プレゼンテーション・パフォーマンス等、参加型学習を支援するスペースへの更新を行なう。新たなICT機器の導入により、簡易に音声録音・映像録画ができデジタル化した質の高いメディア制作の環境を提供する。またネットワークを敷設し、情報技術を生かした映像音声の配信を行なう。

2010年度においては地上波デジタル放送への移行を念頭に、視聴覚基盤（ICT活用基盤）をアナログ方式からデジタルも扱える環境へ更新する予定である。特に教室内、教室間、教材制作室と教室間の伝送媒体や伝送機類はデジタルへの拡充が容易にできるものに変更する。

AVライブラリーについて

2011年度以降、メディアや配信された高画質映像に対応できる表示装置へ、ライブラリー内のブース設備の更新を行なう予定である。地上アナログ放送終了後に予想される規格変更を十分検討の上、環境整備を行なう必要がある。

C . 図書館教育設備について

【現状説明】

図書館 WindowsXP PC 27 台

館内には1階閲覧室と2階～4階書庫にOPAC検索用端末を配置している。いずれの端末からもインターネット経由で学内だけでなく学外の学術情報へのアクセスが可能である。

【点検・評価】

書庫内の資料に近接して検索用端末が設置されている点は利用者にとって非常に便利であると評価できるが、建築時期の関係で新・旧書庫のLANの系統が異なり、旧書庫内の通信速度が遅い。LANケーブルのカテゴリーを上げる工事を実施するなどしたが、改善には至らなかった。

【改善方策】

2010年から2011年に予定している図書館システムの更新時には、導入後満5年以上経過した館内の検索用端末はすべて入れ替える必要があるが、あわせてLANの引き回しの全面的な見直しを実施する。

2 . キャンパス・アメニティ等

1) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

【到達目標】

大学のアメニティ維持・向上については、教育研究および就労のために不可欠なものであると同時に環境問題にも直結する課題である。その関心も学内的に高まっており、さまざまなニーズに応えるべく施策を検討していく。

【現状説明】

現状のキャンパス・アメニティの形成・支援については、学長室会議、管理課を中心とする事務局、教職員が構成するキャンパス整備委員会にて、キャンパスのアメニティや自然環境について検討を行なっている。学生生活上の環境問題については、学生生活課、ウェルネスセンター、教職員が構成する学生委員会とも協議を行なっている。快適で安全な学生生活が維持できるよう具体的な方策を立案している。

【点検・評価】

キャンパス・アメニティの形成・支援の体制についての組織面には特別な問題点はない。予算の関係もあり施設設備の改修や安全対策などが当然優先となるが、そのような場合でも、管理課を中心として、アメニティの視点での機能性や意匠性をできるだけ組み込むようにしている。

【改善方策】

大学事務局全体で取り組むと同時に、学生、教員にも積極的な協力を求めていく。

施設設備を掌握している管理課が中心となり、大学全体のバランスを図りながら、継続的な取組・研究の上、適宜立案をしていく。

2) 「学生のための生活の場」の整備状況

【到達目標】

施設設備の条件を考慮し、学生がキャンパス内の正課授業、自習、課外活動において、快適に過ごせるよう、通学、食事、休息等憩いの場所の整備・充実を図っていく。またエレベーターやスロープ、自動扉など拡充し、バリアフリー化を推進していく。構内通路については、日没後全体的に暗い状況であり、歩行に注意を要する個所もある。構内の照明計画も進めていく。

【現状説明】

食堂・売店について

本学のキャンパスは、最寄りの鷹の台駅から約0.6Km東側にあり、その間には小平中央公園がある。大学周囲は緑が多い環境であるが、一方大学の周辺地には、食事をする店があまりない状況となっている。このため本学学生のキャンパスライフにおいて、学生食堂は重要な要素となっている。記念館1階の食堂は、565席798㎡（厨房等180㎡）で、カフェテリア方式（「日産給食」に委託）をとっている。食堂の座席については、昼休みの時間に利用者が集中し、一時的に混乱が見られる。通常の間帯には食事以外の目的で、喫茶・懇談、自習等の利用にもゆとりを持って利用されている。現状で席数の問題はないものと思われる。昼休み時間は、席取りをやめることとスムーズな回転を促していけば良いものとする。食堂内の環境面では、換気設備がなく新鮮な空気を取り入れ、臭いの排出に機能的な問題がある。大学ホール1階の談話室137席205㎡（厨房等21㎡）においても、食事を提供（10時～18時営業の「カフェポ」に委託）している。食堂では、数量を限定しているが夕食も提供している。厨房設備・機器については、安全面や衛生面からも事故がないよう積極的に対応している。記念館1・2階には大学生生活共同組合の店舗210㎡があり、お弁当や軽食・飲料を販売している。なおこの店舗では、勉強や日用品も扱っている。また、食堂内外の記念館を中心にして、自動販売機15台があり、飲料・菓子類の購入ができ、営業時間外での利便性を図っている。

屋外施設について

記念館食堂の南側にはオーニング付きのテラス（席数56席）あり、食事もできる環境を整備している。また、中庭（2,830㎡）、北庭（920㎡）にも木製ベンチが配置されている。本館と新館に囲まれている中庭は1960年に造園され、1999年度に全面改修を実施した。本館の北側にある北庭は、1997年度に整備されたものである。庭園の他に構内全体の緑についても、都心の大学と比較すると大変多く、この恵まれた環境は特筆すべきことである。屋外で昼食や軽食を取りながら歓談しリフレッシュできる環境となっている。

駐輪場について

自転車通学は自由となっており、その自転車の駐輪場は、正門（500㎡）と東門

(368㎡)にあり、屋根・照明付仕様となっている。大学周辺のアパートに生活している学生や、新小平駅(大学まで約1.2Km)からの通学生にとって自転車は不可欠のものとなっており、高い利用率となっている。自転車の整理については、混雑する時間に小平シルバー人材センターに2006年度から委託しており、整然と収容できるようになった。駐輪場以外の構内の場所は駐輪禁止としており、また安全上、通行できる道路を限定している。構内に長期間放置された自転車はリサイクル業者に回収を委託している。なお卒業生から不用となった自転車については、寄付を受けており、専門業者による整備の後、在学生・留学生に貸し出しをしている。なお、学生の自動車通学は、特別な事由がある場合のみ例外的に許可している。

学生掲示板について

学生用の掲示板は、2006年度に増設・改修を実施し、北庭に機能の集中化を図り、美観上も効果を上げている。場所は、本館北西角、記念館南東側、記念館東側、北校舎西側の4箇所となっている。

喫煙について

喫煙については、健康増進法に基づき、建物内は全て禁煙としている。屋外についても、喫煙場所を6箇所に指定している。歩行中の喫煙は禁止しており、タバコの吸殻等、学内環境の美化にもつながっている。

課外活動について

課外活動については、正課とともに学生の成長に重要な役割があり、そのための施設・設備をキャンパス内に配している。記念館3階の体育施設(1,149㎡)、多目的グラウンド7,610㎡、テニスコート3面2,223㎡は、正課授業と課外活動の共用施設として活用されている。音楽練習室は、大学ホール地下・2階に3室(合計316㎡)、各サークル関係の部屋は、記念館2階、大学ホール地階・2階・3階に合計50室(合計703㎡)ある。

自然環境について

キャンパス内は武蔵野の雑木林の面影を残した沢山の緑があり、四季折々の美しさを保持し、自然との調和を図っている。樹木に覆われた環境は、学生をはじめ教職員とっても憩いの場となっている。これら植木類に対しては定期的な剪定等を実施している。校舎建物等に接近し、障害となっている樹木の枝落としも適宜対応し、施設・設備と共存・調和を図っている。枯れた樹木は、危険防止のため速やかに撤去し、替わりとなる樹木を新たに植樹し補充している。老木となったグラウンドの桜については、卒業生にも良き思い出となっており、特別な配慮をしている。2002年度から2006年度までに亘り、土壌改良・樹皮修復・不定根発生誘導の樹勢回復治療を行ってきた。2007年度以降は、経過を観察しつつ、点検・再治療の10年間計画に従い行なっている。日常的には、根の保護のための立入制限をし、枯れ枝やヤゴ・天狗巣病の枝落としを定期的実施しており、樹勢回復と延命化が期待されている。松の木については、環境汚染と害虫により枯死・衰弱する傾向にあが、抵抗力が回復するように、計画的に薬剤や栄養剤の注入を実施している。また、構内の主要な樹木には、樹木札をかけて保全に力をいれてい

る。さらに、2006年度には、草花に対して、植物名プレート53箇所を設置している。

キャンパスの緑についての問題点は、樹木環境整備計画が完成していないことが挙げられる。構内雑木林は手付かずの状態に近く、保存すべき樹木の保全や、木々の適正な世代交替を促すための間伐等の処置がなされていない。樹木台帳を活用し、定期的な現況把握をおこない、これらの問題点に即応していくことが望ましい。また、キャンパス内の植栽の種類、配置などが体系的に計算し整備することも庭園としては必要であり、今後はグリーンゾーンごとの個別環境の整備も考えられる。

【点検・評価】

学生のための生活の場としては、キャンパス内において大きな問題は現在の所ない。学生生活に支障があり、施設設備の改善を緊急に対応しなければならないものはないが、生活環境の改善点として、バリアフリーや屋外照明設備の整備を進めるべきであろう。

【改善方策】

2010年度には、創立110周年記念事業の一環として、北校舎跡地、大学ホール南側の庭園整備が計画されている。また、それには大学ホールのバリアフリー化も含まれている。また、2010年度には、構内照明設備の 期計画を検討している。2号館・記念館・大学ホールの空調設備整備・更新は、2009年度に計画にされており、換気設備の新設も実施する。また大学ホールは、地下練習室・部室に除湿機の新設を実施する。

自然環境については、2008年度に正門周辺の環境調査に着手した。2009年度以降、この調査をもとに整備改善を進める予定である。

3) 大学周辺の「環境」への配慮の状況

【到達目標】

近隣住居との共存を図るため、樹木の枝・落ち葉、日照、騒音への対応、通学の自転車通行等、これらの問題は常に発生する可能性があり、絶えず学外に対して注意・点検を行っていき、周辺地域の「住環境」の維持に協力していく。

【現状説明】

大学周辺の「環境」への配慮については、最も影響があると思われるのが騒音問題である。音楽系サークルのための練習室は、大学ホール地下に設置し、防音対策をとっている。また、教室等その他の施設においても、楽器の音出しは19時までの制約を設けている。授業時のチャイム音の問題については、廊下等にスピーカーを増やしているが、屋外のスピーカーは欠くことができない状況である。他大学では、チャイム音を短いものにするなどして対応している例があり、時間や音量・音質などの検討をすべきであろう。大学の自然環境である樹木については、近隣の住民や

大学周囲を散策する人の目を楽しませている。キャンパス南側には玉川上水が流れ、南側敷地の一部は、玉川上水風致地区（第2種）の指定を受けており、大学外との自然環境との調和をもたらしている。また、府中街道の西側の雑木林は、東京都の都市計画公園「津田公園」に指定されている。この街道の東西両側の樹木は大学正面の顔となっている。このように大学の緑の保全是、地球温暖化問題にも貢献をしている。

【点検・評価】

本学は自然環境が豊かな反面、樹木の問題も発生しやすい。枝落とし、除草、落ち葉掃きも定期的に行なっているが、近隣住民より伸びた枝などについての苦情がたまにある。問題が発生した場合は、即時に対応して善処している。自然相手の要素もあり難しい面もあるが、緑地管理の年間計画を補正しながら対応をしていく必要がある。

学生の通学路での自転車運転のマナー（逆走や安全確認等）について、最近はその指摘を住民から受けるケースは幸いない。

【改善方策】

大学の近隣地（樹木の枝や落ち葉等）や通学路（自転車のマナー等）の日常的な点検を充実していく。警備員等による学外周辺への巡回を実施すれば、交通安全や防犯効果にもつながるものと思われる。

3 . 利用上の配慮

1) 施設・設備面における障害者への配慮の状況

【到達目標】

本学の建物は、建築当時にはバリアフリーの設計思想がない古いものが多い。こうした建物には物理的・技術的・法的・財政的に可能な限り、各施設・設備について、ユニバーサルデザインを考慮し、バリアフリー化を図っていく。

【現状説明】

身体の不自由な方への対応のバリアフリー化は、スロープを設置し、段差を無くし容易に平行移動でできるようにしている。また上下移動には、エレベーターの設置を、順次整備を行なってきた。その他の現有の設備には、専用トイレ、自動扉などあり、これらの設備の設置は、新築時や増改築工事の際には必ず設置するようにしている。現状はまだ完全な状態とは言えないが、徐々に整備が進んできている。「エレベーター」は、本館・南校舎・1号館・2号館・5号館・記念館・書庫（図書館）（千駄ヶ谷本館は使用禁止）、「身障者用トイレ」は、南校舎・1号館・5号館・記念館・書庫（図書館）・交流館、「入口スロープ」は、本館・1号館・2号館・5号館・6号館・記念館・図書館・書庫・交流館・千駄ヶ谷別館、「自動扉」は、1号館・5号館・図書館となっている。なお、エレベーターは車椅子対応、スロープの仕様は、手摺2段、視聴覚者用タイル、点字シール貼付を標準としてい

る。古い建物の建築当初のトイレについては、改修が全て完了している。和式から洋式便器への拡充が図られ約70%が洋式化されている。今後は、交流館・2号館のトイレに設置したようなシャワートイレ一体形便器に更新していくことを目標としている。

【点検・評価】

新館等はまだ、エレベーター設備がなく、視覚障害者用の表示通路や車椅子のための段差解消などの整備も遅れている建物がある。学内諸施設の改善策を計画的に実施していく必要がある。また、建物内外の案内板や教室番号の点字化も進める必要がある。

【改善方策】

2009年度には、新館エレベーター及び自動扉、新館2階ホワイエ身障者トイレ、2号館玄関自動扉の設置を実施する。

2) キャンパス間の移動を円滑にするための交通導線・交通手段の整備状況

【到達目標】

本学のキャンパスは、小平キャンパスが活動の中心であり、千駄ヶ谷キャンパスの方は利用規模が現在の所小さい。また、千駄ヶ谷キャンパスは、千駄ヶ谷駅前にあり、キャンパス間の移動の問題はない。小平キャンパスは、校地の中央に教室群を配置し、南側に研究施設（研究室）、北側に学生の休息の施設、体育施設、課外活動の施設、さらに北側には学生寮がある。大学の機能のゾーニング化を図っており、それぞれの機能が、有機的なつながりを形成している。このコンセプトを維持し、将来の建物整備のランドデザインを考えていく。

【現状説明】

小平キャンパス内の移動については、通路の段差（階段等）をなくし、全てアスファルト舗装化されている。屋外照明設備（外灯）については、通路に暗い箇所もあり、まだ十分な整備状況だとはいえない。適正な照度を確保し、周囲の環境に適した器具の選定など考慮しながら、増設していく必要がある。構内道路・通路及び庭園の歩道については、長期計画を踏まえた更新を検討している。

【点検・評価】

構内道路・通路の舗装については耐用年数と劣化損傷状況を判断し、計画的な更新を行っている。現在、道路舗装の一部が老朽化により、不陸した個所が発生している。

学内の動線（照明設備を含む）については、創立110周年(2010年)記念建築事業計画で、北校舎建替え計画があり、キャンパス内の導線を考慮した設計が計画されている。

【改善方策】

2009年度に本館前道路、5号館前道路等の舗装改修計画を具体的に進めている。

3)各施設の利用時間に対する配慮の状況

【到達目標】

小平キャンパスにおいては、交通機関の運行時間等を鑑み、入構・出構の時間を設定している。学内の安全管理の観点や近隣住民の住環境へ配慮をしたものである。今後も教育研究上、必要に応じて可変的に利用時間の対応をしていく。

【現状説明】

学生に施設を貸し出す時間は、平日9時から20時（祝祭日、大学の休業日は9時から17時）となっている。（宿泊を伴う施設利用は除く）各施設の利用については、個別な対応をしている。ただし、冬期休暇、入試期間、塾祭、卒業式等の大学が特別に指定している日は、施設の利用を制限している。

図書館 授業期間中の平日（8時40分から21時 ただし、書庫は9時から20時）

授業期間中の土曜日（8時40分から16時30分 ただし、書庫は9時から16時）

休暇中の平日（8時40分から16時30分 ただし、書庫は9時から16時）

視聴覚センター 授業期間中の平日（9時から19時30分）

休暇中の平日（9時から16時30分）

計算センター 授業期間中の平日（WS教室 2階8時50分から21時、3階8時50分から20時、相談室 8時50分から17時30分）

休暇中の平日（WS教室 8時50分から17時）

新館の実習室・自習室・コンピュータ室・3階ホール

授業期間中及び休暇中の平日・土日祝日（9時から20時 4年生・大学院生は申出により22時まで延長可、4年生の卒論作業目的のみ年末まで使用可）

津田梅子資料室 授業期間中・休暇中の平日（9時から16時）

大学院院生室 休暇中の平日（9時から22時）

土日、祝日、夏期・冬期等長期休暇中（9時から20時）

なお、サークル部室は、正門の開門6時から閉門23時までの間は利用できる。

宿泊のできる施設は、教育研究用では、西国分寺セミナーハウス・軽井沢セミナーハウス・6号館・7号館、課外活動用には6号館が利用される。

【点検・評価】

施設の利用時間は、学生の利用にあわせるように設定されており、施設使用に問題が生じることはない。また、施設利用の時間的な設定もキャンパス構内の安全管理で必要なものである。ただし、教育研究活動の上で必要と判断された場合は、時間外の施設利用を個別に特別許可をだしている。

【改善方策】

教育研究活動で、特別許可を必要とする事例が増えてくれば、それに合わせた利用時間、利用施設の扱いを柔軟に改善していく。

4 . 組織・管理体制

1) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

【到達目標】

施設・設備の健全な機能を常に維持し、緊急時事態にも早急に的確に対応できる体制を確立する。

【現状説明】

キャンパスの施設・設備の維持・管理は、事務局の管理課が中心となり、計画の立案から、機能・安全性・衛生面の維持管理まで統括している。維持管理の規程としては、「学校法人津田塾大学固定資産および物品管理規程」「学校法人固定資産管理規程執行細則」に基づいて行なっている。また、内規の「工事見積、発注マニュアル」も使用している。重要なもの、安全上必要なもの、点検の法的義務付けのある施設・設備の維持・管理については、外部業者と保守契約を締結している。修理・修繕についても同様である。管理課が、土地、建物、機器備品等を統括管理しているが、管理課職員は、専門職ではないため、調達から維持管理、廃棄まで専門家の意見を参考にして判断を下している。管理課の事務所内には、建築・設備の委託の専門家の席を置いている。機器備品については、各部署に物品管理担当者（火元責任者）を決めて現場の管理を委託している。千駄ヶ谷キャンパスについては、千駄ヶ谷キャンパスの職員と連携をとり、小平キャンパスと同様の体制をとっている。

【点検・評価】

管理課にて施設・設備の維持・管理のため、日々の点検も兼ねた巡視体制をとっている。また緊急を要する改修や、整備計画として実施するものへの対応も管理課が主体となり判断をしている。緊急事態等が発生した場合でも、速やかな学内手続（意思決定）ができるような責任体制を整えている。勤務する職員が長期に減員する夏期休暇や冬期休暇においては、緊急連絡網の表をその都度作成し、連絡体制の相互確認を実施している。なお、通常時の施設管理・施設整備について、管理課以外の部署においても、より一層協力していく体制が望ましい。

【改善方策】

2008年度から定期点検項目に自動扉を追加した。施設・設備の自主点検項目を再度整理し、必要な個所・頻度などを見直していく。委託先や施工業者への監督、その作業内容について細心の注意を払うとともに、管理課職員も施設・設備の専門性をより一層高め、大学の施設・設備の習熟度を上げるべく、今後も継続してスキルアップを図る。機器備品の管理は、物品管理者と連携し、現物確認の内容をさらに高め

ていく。利用者である教職員、学生全員が施設・設備を正しく大切に使用すること、不良箇所等の発見と速やかな情報提供の協力を継続してお願いしていく。

2) 施設・設備の衛生・安全の確保を図るためのシステムの整備状況

【到達目標】

施設・設備の構造面・機能面において、衛生・安全性の維持・向上を重視し対策を講じていく。

施設・設備の安全性のソフト面において、管理課および外部委託による人的な体制に加えて、機械的な監視システムを充実していく。

【現状説明】

建物について

小平キャンパスの建物は、1980年以前の旧耐震基準で建てられた建物は、安全性確保のため、2005年度までに自主的に補強改修を完了している。この耐震補強により、阪神淡路級の大震災に対しても、建物の倒壊及び崩壊の恐れのないAランク(耐震判定値 1.0)程度(平均)のレベルまで耐力を向上させている。また、吹き付けアスベスト(トレモライト等6種石綿、0.1wt%超)も全て撤去し、安全性を確保している。PCBを含んだ電気機器(安定器、トランス、コンデンサー)もすべて撤去し、隔離保管をしている。電気・水道・防災等の設備については、管理課で委託した常駐の専門家により自主的に日常点検をしている。千駄ヶ谷キャンパスについては、耐震性は千駄ヶ谷本館の上階以外は問題が無い。アスベスト・PCBの問題も同様である。日常的な点検は、設備・営繕業務を業者に委託して対応している。建物・設備図面については、不備な面もまだ多く継続的な整備が必要である。耐震については、構造耐震指標 I_s 値は、確認しているが、耐震診断は1次のみで、2次までおこなっておらず、保有水平耐力指標の q 値、 $C_t u S_d$ 値のデータがない状態である。

防火・防災・防犯について

「津田塾大学防火・防災規程」、内規の「津田塾大学防災・地震災害対策マニュアル」により、全学的な防災・危機管理体制が組まれている。有事の際には、学長を自衛消防隊長とした自衛消防組織が、火災・震災時に対応する機能を担っている。「同マニュアル」は、危機管理、防災・消火・避難等の対応を、組織的に、実作業的に分かりやすくまとめられており、必要に応じた緊急連絡網(学内、外部機関・業者)等も記載されている。これは、教職員や、守衛所警備員に配布されている。小平キャンパスでの実務面では、外部に委託している警備員との情報交換を定期的に行い、消防訓練の回数・内容の充実を図っている。また、構内巡回を十分に行い、防犯の強化を図っている。また、2008年度からは、休日の守衛所警備員を1名から2名に増員し、平日と同様の保安体制にしている。なお警備員は24時間交代勤務であるが、0時30分から5時までは仮眠の時間となっている。災害時の非常用備蓄品については、簡易組立トイレ、アルミ製軽量車椅子、担架ベッド、サバイバルブランケット、サバイバルフード等非常食・保存水を確保し

ている。設備的には、緊急時・災害時用に非常用発電機を書庫地下に設置しており、東京電力（商用電力）の停電時には、井戸水の汲み上げが可能であり、消火栓ポンプの電源としても活用できる。消防署が消火活動に來られない状況になっても、自衛消防隊員による消火活動を可能としている。なお、学内には、消防用の防火水槽は2箇所あり、消防署の消火活動の水源として利用できる。千駄ヶ谷キャンパスについても、小平キャンパス同様に警備業務を業者に委託している。但し、正門立硝の警備員は週3日の午後という臨時的な業務体制をとっている。小平キャンパスについて、防犯面の問題点は、南・北・東側フェンスに乗り越え防止用忍び返しを設置しているが、西側境界フェンスの改善が残っている。また、警備員による巡回警備にも限界があり、重要施設への侵入に対して、センサー・カメラ等の機械警備設備増設が必要である。災害時、震災時の対応について、規程やマニュアルは整備されているが、学内責任者・担当者の連絡体制等、現場活動等の人的な機能面の強化・訓練が必要である。また、大震災時において、学生が帰宅困難者となった場合の具体的な対応等が課題である。

清掃について

小平キャンパスの学内の清掃の体制については、専門業者に委託し実施している。構内の除草・清掃、ゴミ回収等は、シルバー人材センターに委託している。専門業者の清掃作業により、キャンパス全体の衛生・汚れ等の状況が逐次把握されており、建物内、トイレ等の衛生面や美観上も良い状態で維持されている。日常清掃以外にも、夏期・冬期等の休暇期間にスポット清掃を必要に応じて専門業者に委託して実施している。日常的な清掃には問題がないが、スポット清掃において、窓ガラス、照明器具、ブラインド、什器類などの備品類に対して、よりきめ細かい対応が望ましい。

学生の救急措置について

学生の救急措置については、2号館2階に医務室、休養室があり、医務室では応急処置を行なっている。救急箱は、図書館・AVセンター・センターオフィス・守衛所・体育館・大学ホール喫茶に常設している。担架は、本館1階・南校舎1階に各1台、車椅子は、新館センターオフィス・2号館2階ウェルネスセンターに各1台常設している。AED（自動体外式除細動器）は、新館センターオフィスに設置している。

【点検・評価】

施設設備について、個々人の経験や知識で問題に対応することで現在に至っている。その情報を整理・標準化し、データ化していく余地がまだある。その情報の管理システムの整備を充実することにより、ソフト面において施設・設備の衛生・安全性を向上させる余地がある。

【改善方策】

建物・設備の図面の整備・CAD化を図っているが、今後も過去の改修データを基に整備を進め体系した管理を継続して構築していく。

電気・給水設備等の故障等の警報のシステム、防犯上の監視・連絡システムの導入を検討する。各建物・施設の警報盤を整備し、その情報を守衛所に一括監視するシステムを再構築していく。同様に必要に応じた、防犯の機械警備を導入していく。災害時等の緊急事態にそなえ、模擬訓練等の実技を充実していく。